

F P 通信

2020年12月 第26号

発行

ベイヒルズ 税理士法人

〒221-0052

横浜市神奈川区栄町1-1 KDX横浜ビル6階

TEL:045-450-6701 FAX:045-450-6706

HP: <https://www.bayhills.co.jp>

人生100年時代を安心して生き抜くための資産形成 自助努力による資産運用の為の制度

きっかけは老後 2,000 万円問題

老後資金が 2,000 万円足りないと騒がれたことがきっかけとなり、資産形成を目的とした、自助努力による資産運用の重要性が高まっています。そのような中で注目されている制度が、iDeCo、NISA、つみたて NISA です。

iDeCo、NISA、つみたて NISA の違い

	iDeCo	NISA	つみたてNISA
運用期間	60歳まで	5年間（最長10年間）	20年間
掛金上限（年間）	14万4,000円 81万6,000円 ※職業による	120万円	40万円
対象商品	投資信託、定期預金、保険	投資信託、 国内・国外の株式	一定の条件を満たした投資信託
税制優遇	・積立額に応じ所得税と 住民税の負担が減る ・運用で得た利益が非課税 ・受取時の控除	運用で得た利益が非課税	運用で得た利益が非課税
途中引き出し	原則60歳まで不可	いつでも可	いつでも可

上記のように多くの違いがありますが、運用益が非課税という共通点があります。

一般的に、投資信託の売却益や株の配当金、定期預金の利息など、運用で増えた利益（運用益）には、20.315%（所得税（復興特別所得税含む）15.315%＋住民税5%）の税金がかかります。

しかし、iDeCo、NISA、つみたて NISA を通じて購入した金融商品における運用益には、いずれも税金がかからないため、より効率的にお金を貯めていくことができます。

メリット・デメリットは

	iDeCo	NISA	つみたてNISA
メリット	・積立時と受取時の税制優遇 ・月額5,000円から	・幅広い商品から選べる ・いつでも現金化できる ・年間の掛金の上限が高い	・非課税となる期間が長い ・いつでも現金化できる
デメリット	・原則60歳まで引き出せない ・個別の株式に投資できない	・非課税期間が短い	・個別の株式に投資できない

iDeCo の最大のメリットは、運用益が非課税になるだけでなく、掛金を積み立てるときとお金を受け取るときに税金が安くなることです。

一方で NISA やつみたて NISA は、お金が必要になったらいつでも積み立てたお金を引き出せます。原則 60 歳になるまでお金を引き出せない iDeCo よりも換金性が高い制度です。

では実際に始めようと思ったらどの制度がよいのでしょうか。自分に合っているのはどれになるのでしょうか。

目的によって制度を選ぶ

(1) 老後資金を積み立てるなら iDeCo

所得控除などの節税効果を受けながら、長い期間をかけて老後資産を準備ができます。

iDeCo で積み立てたお金は、60 歳になるまで引き出せませんので、貯蓄が苦手な方でも老後資金を貯めることができます。

(2) 一括投資や株式投資をしたい、10 年以内に使いたいなら NISA

積み立て投資ではなく、まとまったお金で一括投資をしたい方、個別の企業の株式に投資したい方は、NISA がおすすめです。個別の株式に投資できるのは NISA だけです。

(3) 60 歳より前に使いたいならつみたて NISA

お子さまの進学費用、マイホームの頭金、定期的に海外旅行に行くための費用など、数百万円ほどの大きなお金を効率的に貯めたることができます。

制度の併用はできる？

NISA とつみたて NISA はどちらか一方しか加入できないので、併用するのであれば、「iDeCo と NISA」または「iDeCo とつみたて NISA」の組み合わせになります。

(1) iDeCo と NISA の併用が向いている方

- ・老後資金を貯めつつ、10 年以内に使うお金も運用で貯めたい方

- ・一括投資や株式投資にも挑戦したい方

(2) iDeCo とつみたて NISA の併用が向いている方

- ・老後より前に必要なお金を効率的に貯めたい方

- ・iDeCo の限度額以上に老後資金を貯めたい方

資産形成を始めましょう

今回は資産形成のための制度を見てきましたが、より詳しく知りたい方、ご自身にはどの制度が合っているか知りたい方、ご不明な点がある方はファイナンシャルプランナー等の専門家にご相談ください。明るい将来の為に目的に合った制度を選んで、効率の良い資産形成を始めましょう。